

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 2 年 5 月号

編 集 武田 隆久  
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15  
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <https://jha-e.jp/> ※4月1日より変更受付時間 10:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日 毎月 1 日

## COVID-19 との闘い — 「スペイン風邪に学ぶ」

中川原 譲二  
大阪なんばクリニック 院長  
専門課程小委員会 委員

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。人類は今、COVID-19 のパンデミックという未曾有の世界的危機に直面している。私たちの人生で経験する最大の危機である。「医療崩壊」など、想像もしなかったことが現実となりつつある。世界が一丸となって、この危機に取り組みなければならない。一人ひとりが、絶望することなく断固たる行動をとらなければならない。いずれ嵐は去るのだから。しかし、この嵐が去ったあと、どんな世界が待っているのかを考えることも必要と思われる。

1918年に世界を襲った「スペイン風邪（インフルエンザ）」を思い出してみよう。第一次世界大戦（1914年～1918年）の最終年に起こったこのパンデミックの第1波は1918年3月に米国デトロイト付近での流行で始まり、米軍のヨーロッパ進軍とともに大西洋と渡り、5-6月にヨーロッパで流行した。第2波は、その年の秋にほぼ世界中で同時に起こり、死者が急増した、第3波は、1919年の春から秋にかけて、再び世界で流行した。医療崩壊が起こり、感染が拡大した。世界全体の推計感染者数は、5億人とされ、当時の世界人口の3-4割近くが感染し、世界全体の推定死者数は1700万人～1億人とされている。日本では、当時の人口5500万人に対して、2300万人が感染し、39万人近くが死亡したとされている。これらの推計値は、近年の研究者によって明らかにされたもので、当時の多く国家は、この事実を公にしなかった。このパンデミック後の世界では、各国が国家主義的な孤立へと向かい、第2次世界大戦への道をひた走ることになったのである。「スペイン風邪」の第1の教訓は、この轍を踏むことなく、世界が結束することにあることは、言うまでもない。

診療情報管理士を目指す皆さんには、このような緊急時であっても、全ての医療者に対して現場で行われた診療の現実をできる限り正確に診療録に残すことを呼び掛けるのが、診療情報管理士の仕事であることを自覚してほしい。日々蓄積される診療情報の記録によって、現在の世界的危機の実相を後世に残すことが、次の新たな世界的危機を克服するための強力な武器となるからである。「スペイン風邪」の第2の教訓は、各国でのパンデミックの実態を人々がタイムリーに正確に把握し、感染拡大につながるリスク因子を共有することで、今後予想される世界的な第2波、第3波を最小化させることである。診療情報管理は、平時での仕事ではないことを改めて確認し、この危機的状況の中でも、確実に遂行されなければならない。自分たちの職務をやり遂げることが、COVID-19 との戦いである。